

(様式 1-5)

広野町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 4 年 10 月 12 日時点

※本様式は 1-3, 1-4 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	事業名	事業番号
	広野アートイベント推進事業	A-3
事業実施主体	広野町	総交付対象事業費 8,665 千円
既配分額	0 千円	当該年度交付対象事業費 8,665 千円
経費区分ごとの費用		
一 地域の魅力向上・発信事業		
①情報発信事業 小計 8,665 千円		
i) 風評動向調査 千円		
ii) 体験等企画実施 8,665 千円		
iii) 情報発信コンテンツ作成 千円		
iv) ポータルサイト構築 千円		
②外部人材活用 小計 千円		
i) 企画立案のための外部人材の活用 千円		
ii) 地域の語り部の育成 千円		
二 関連施設の改修		
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修 千円		
風評の払拭に関する目標		
【アウトプット】		
①アートイベントの開催 1 回		
②情報発信		
PR 動画 (町公式 YouTube チャンネル、首都圏のビジョンでの CM 放送) の発信 計 750 回		
SNS (Facebook、Instagram、Twitter、LINE 等) を用いた広告発信 計 15,500 回		
HP や SNS による情報発信 (広野町、出演アーティストほか) 計 2,500 件 (延数)		
応援職員を派遣した自治体へのポスター・チラシの発送 約 50 自治体		
【アウトカム】		
○ アートイベントへの参加者数 100 人		
事業概要		
事業実施主体	広野町	
主な企画内容	アートを活用した交流人口拡大イベント、情報発信	
主な事業の実施場所	広野町	
事業の実施期間	令和 4 年度	
企画内容		
【実施体制】		
①実地主体: 広野町		
②連携団体及び役割分担		
(1) 委託事業者		
(2) 町内事業者 (飲食物の販売)		
【現状・課題】		

<現状>

- ・平成23年3月の東日本大震災・原子力災害に伴う広野町の「緊急時避難準備区域」は同年9月に解除され、除染や食品の検査等を通じて、広野町は「安全・安心に過ごせる町」となっている。
- ・また、震災前（平成22年）と比較した令和元年の広野町の観光客入込数は半分以下にとどまっている。

<課題>

- ・震災時の全町避難から、約9割の住民が帰還しているものの、県外に向けた「安全・安心に過ごせる町」のPRが十分ではない。
- ・県外からの視点では、いまだ当地域への風評被害が残っており、幅広く、多くの人に町に「来てもらう」ことが重要であると考ええる。
- ・広野町内において、昭和61年に草食恐竜（通称ヒロノリュウ）の化石が発見され、その後も肉食恐竜（通称フタバリュウ）の化石が発見されるなど恐竜の骨以外にも多くの化石が採取されており、町では以前から「化石の観光資源化」を目指しているところ、恐竜をテーマにしたイベントの開催等により、広野町の魅力と安心・安全に係る情報発信に活用していくことを検討する必要がある。

【現状の課題に対するこれまでの取組】

- ・広野町では、2014年度から5年間「国際フォーラム」を開催し、広野町の現状と課題について世界に向けて情報発信を行ってきた。2018年開催の国際フォーラムのセッションにおいて、『アーティストが地域住民の生活に根差した資源を発見し、それを活かした芸術作品を住民と共同で制作することで、地域での交流人口が拡大し、地域振興の効果が大きい。』との提言を受けた。
- ・2020年は、コロナウイルスが猛威を振るっていたこともあり、集客型のイベントではなく「アーティストと一緒にスプレーを用いてトートバックを制作する体験型イベント」を開催した。
- ・広野町では、平成27年度から「広野町ふるさと創生大学」を開校しており、平成30年度には「広野町の恐竜時代～カモハシ竜がいた広野町」という講座を開催した。

【事業実施により得られる効果】

- ①恐竜というコンテンツによる広野町への誘客の促進。
- ②イベント参加や情報発信による広野町の魅力の向上。
- ③実際に「来てもらう」ことで、より正確な町の状況を知っていただく。
- ④イベントの様子をアーカイブとして配信することで、イベント終了後も魅力や取組をPRできる。

【今年度事業における具体的な取組内容】

アートイベントの開催

実施期間：R4. 12月～R5. 3月 1回

実施体制：外部委託（指名競争入札）

概算費用：866万円

【事業概要】

1 アートのかで広野町を魅力的な町とするイベント等の開催

① アート作品の制作、アート体験（「知ってもらう」「来てもらう」）

【事業概要】

- 「恐竜」という子どもに興味を持たれやすいコンテンツのアートイベントを開催し、保護者を巻き込んだ家族単位での誘客を行う。

また、県外から来場する意欲を高めるため、アートイベントには本事業に沿った知名度のある著名人を招請してきっかけの一助とすることに加え、著名人の情報発信力を活用した風評払拭を図る。

さらに、来場者が参加して作り上げるアート作品を町に残すとともに、持ち帰ることができる記念（作品）も作成することで、町への愛着や魅力向上による風評払拭を図る。

- イベント開催前には幅広く情報を発信することで広野町の情報を“知ってもらい”、アートイベント等のアーカイブ配信と合わせて、一過性のイベントに留めずに継続的な情報発信による風評払拭の効果を期待している。

【具体的取組内容】

- 参加者（ファミリー層）がアーティストと一緒にアート作品を制作する体験型のアートイベントを開催。

（アート作品の想定案）

・「恐竜の壁画」の制作

恐竜の化石等を展示している施設の外壁に、アーティストが恐竜の絵を描き、周辺に子どもが簡単な形の絵を描くことで完成する大型の共同作品を制作する。

・化石を展示する台座の制作

化石の解説だけでは伝わらない魅力を視覚的に伝えるため、化石を展示する台座にアーティストと子どもと一緒に恐竜の絵を描く。

・子どもが色を塗った恐竜レプリカの制作

ヒロノリュウはどんな色だったのか、子どものアイデアで恐竜レプリカに色を塗ってもらい、ヒロノリュウを完成させる。

・恐竜マグネットの制作

広野町のイベントに参加したという手元に残る記念（作品）を作り、子どもの友人間及び保護者の SNS 等での情報発信に繋げるため、無色の恐竜マグネットに子どもが自由な発想で色を付けて恐竜マグネットを完成させる。

・サウンドアートの制作

身近にある物を使い、子どもに様々な音を作ってもらい、その音を使って、プロのアーティストによるサウンドアートを制作する。サウンドアートはイベント時だけでなく、壁画を描く施設やアーカイブ配信等でも効果的に活用する。

・スカイランタン制作

子どもが自由な発想で紙に絵を描き、その紙を使用してヘリウムガスで浮かぶ軽量のランタンを制作する。ランタンを夜空に浮かべ、来場者の心象に残るような光の芸術を生み出す。

- ポスター及びチラシをアンテナショップや応援職員の派遣等により交流のある県外自治体の公共施設等で掲示又は配布

- SNS で PR 動画を配信

- 関東圏の街頭ビジョンで PR 動画を放映

- 関東圏のラジオ番組でイベントを告知

② 広野町の“食”における安心・安全性の情報発信（「知ってもらう」「食べてもらう」）

【事業概要】

- アートイベントの開催に併せて広野町の「食」を体感できるイベントを現地で開催することで実際に“来てもらい”、さらに詳しく“知ってもらい”、加えて広野町の食の安全性を“食べてもらう”ことで、イベント期間中は町からの情報発信だけでなく、参加者の間接的な情報発信によって周知力と往来者の増加に繋げる。

【具体的取組内容】

- 町内団体等によるブース出展

来場者に広野町へ“来てもらう”だけで終わらせない施策の一つとして、福島県の“食”に対する不安を解消するきっかけとなるよう、イベント時に広野町商工会等と協力して“食”の安心・安全性を“知ってもらい”、実際に“食べてもらう”ようなブースを展開する。

【今年度事業における目標】 ※複数年度にわたって事業を実施する場合

※ 単年度事業

【今年度事業の実施により得られる効果】※複数年度にわたって事業を実施する場合

※ 単年度事業

【次年度以降の取組】※複数年度にわたって事業を実施する場合

※ 単年度事業

【新型コロナ感染拡大防止対策】

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、国・実施主体する地方公共団体・（イベント開催など実施主体と開催地が属する地方公共団体が異なる場合には、開催地が属する地方公共団体）が発出する通知・ガイドラインに則った形で事業を実施いたします。

<具体的な対策>

- ・ 来場者の連絡先記載
- ・ 来場時の検温と消毒液の設置
- ・ 換気の実施と密集の回避